

人工知能は これからのコモンセンス

ご購入はこちら

佐藤 聖

人工知能がコモンセンスな理由

● AI機器をすでに使っている

インターネット上のサービスを利用していれば、幾つかの人工知能を知らないうちに利用しています。ゲームで遊んでいるときも、ニュース・サイトで記事を読んでいるときも、スマホをポケットに入れて歩いているときにも、人工知能が便利なサービスを提供するために働いているはずで

す。現代では多くの人々が無意識のうちに人工知能を利用しています。企業では、ECサイトの商品などのリコメンデーション・サービスや投資信託の運用アドバイザー・サービスに、クラウド上に実装された人工知能システムを利用しています。これによって情報が集中処理され、利用者にピッタリのサービスを提供できます。

● これからも増える

一般的にこうしたサービスの入り口としてPCやスマホが利用されていますが、スマート・ウォッチ、スマート・スピーカー、IoT家電、自動車などにも人工知能端末として利用できるものがどんどん増えています。特集では、人工知能を作って使う参考になるよう

に、たくさんあるライブラリやアルゴリズム、ボードなどを整理します。人工知能がどんなことに応用でき、どのように開発すればよいかの理解につながればと思います。

● 家庭内にまで来そう

今、人工知能のトレンドに音声ユーザ・インターフェース (VUI) があります。音声からテキストを生成する際、人工知能によって音声波形を分析して該当する文字に変換します。

具体的なサービスとしてはPCやスマホでよく知られている Google Assistant, Siri, Cortana などがあります。2018年あたりからこれらに対応した冷蔵庫、オープン、照明器具などのIoT家電が広く普及しそうな予感がします。IoT家電ではボタン操作の代わりにVUIを使って操作します。機械に弱い人でも、取り扱い説明書で操作方法を読まなくても簡単に使いこなせるように作られています。例えば冷蔵庫に話しかけて今ある食材から作れる料理のレシピを訪ねたり、冷蔵庫内の映像を表示するよう指示したりできます (図1)。

もしも、テレビのリモコンが見つからなくても探し回ることもなくなり、音声操作で番組を選択したり、録画予約したりできます。

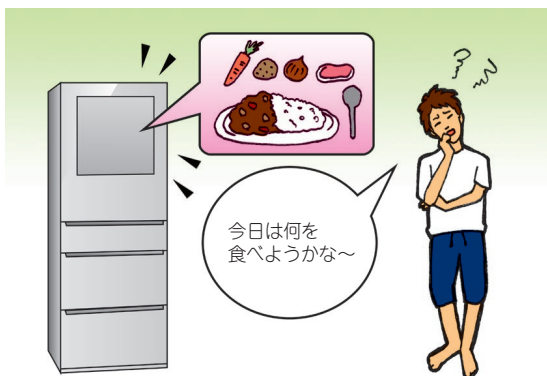


図1 冷蔵庫と相談して夕ご飯のメニューを決める

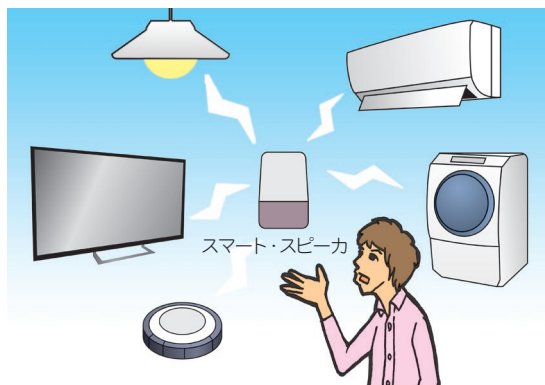


図2 電子機器の操作はリモコンでなくスマート・スピーカーに